

# 通信小海

## 造り主の知恵、

## 人の知恵

牧師 水草修治

保育園にかよっている息子の先生が、キアゲハの幼虫をくださった。黄緑に黒いしま模様、そこにオレンジ色の点点がある。さわると、ヒエツ！マシユマロみたいにプニョプニョしている。ニンジンの葉っぱを一日中もりもり食べて、みるみるうちに大きくなったのだが、昨日の朝は、体を曲げてじっとしていた。「ははあ絵本の『はらぺこ青虫』みたいに、食い過ぎておなかをこわしたかな。」と見ていると、黒いしまもようが薄れていき、頭がツンとがってきて、サナギになってし

「今月のみことば」  
「主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。」箴言一章七節

まった。どこがどうなつて、青虫がサナギになったのかももう思い出せない。手品である。もうしばらくすれば、あの美しいキアゲハになって優雅に飛び立つのだろう。

創造主の知恵はなんと不思議なものだろう。こんな奇跡がこの季節には、あちこちのニンジン畑でくりかえされているのである。

「神の目にみえない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造されたときからこのかた、被造物によって知られはつきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」(ローマ書一一)

最近、米国科学アカデミーの報告にかんする「遺伝子操作動物の危険性」という記事を読んだ。人工の遺伝子操作を受けた生物が逃げ出して野生で繁殖し、自生の植物や動物をおびやかすという。特に、それが自然の動物よりも生殖能力がすぐれているように操作されている場合、自然動物を絶滅させてしま

日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治  
会堂・牧師館 長野県南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七  
〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六  
郵便振替 五三 六一六八三

## 見晴台の教会へどうぞ

(小海駅東の丘の上)

地図

## 集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時半

朝礼拝 午前十時から十一時

夕礼拝 午後七時半から八時半

水曜日 祈り会 午後一時半と午後七時半

第三金曜日 賛美歌と聖書に親しむ会

午後七時半

\*八千穂・海尻・川上でも家庭集会あり。

\*個人的なご相談にも乗ります。

うことになる。人は、目先、早く成長する牛や豚や養殖魚を造ることができれば、巨万の富が手に入るということで、すぐに飛びつくのだらう。が、長い目で見ると地球の生態系をおかしくして、人間が生きるための環境そのものを破壊してしまう危険がある。

バイオテクノロジーに手をつけた人間は生命の仕組みまでコントロールできる知識を得たと思いがっているのだが、所詮、人の知恵は有限である。目先のものしか見えないし、欲がからめばなおのこと見るべきものが見えなくなる。すべてを見とおしておられる創造主を畏れることが今こそほんとうに必要なことか。生物の一つ一つに計画をもってお造りになった創造主を愛することが必要ではなからうか。

「主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。」

箴言一七

アーキモチよかった たのしかった

## 福音指圧教室

日時 九月二十二日(日)

午後二時半から四時

\*お一人でのご参加も歓迎。

\*持ち物バスタオル(敷いて使います)

風がにわかにか秋を告げて、からだのほうがついて行かないという方もいらっしやるのではありませんか。肩はどうですか?腰はどうですか?おなかの調子はどうですか?今月も指圧教室をします。心もからだも健やかに変わってください。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく永遠のいのちを持つためである。」ヨハネ三十六

## 感謝!南牧村の広報もご協力くださいました

### 山谷支援

山谷の炊き出しのためにお米が必要をお願いしてまいりましたが、このたび、南牧村の広報でも山谷支援を訴えてくださり、早速、たくさんお米を届けてくださる方が現われました。また、八千穂村の民宿のかたは、たくさんしょうゆや油や調味料をくださいました。

皆様のご協力で、八月いっぱい切れそうだったお米が、十月まで持ちそうです。ほんとうに感謝です。山谷の炊き出しと、自立支援のために、ご協力を続けてお願いします。

小海町役場 九二二二五二五

藤田寛 ヤマト運輸・台東支店止め(着店番

号三一 五)クロネコ宅急便で

カンパ 千振替 二四 四五三七九六

山谷農場

△幸福な家庭△

## 父母を離れ

「それゆえ男は、その父母を離れ、妻と結び合い、二人は一体となるのである。」

創世記二二四

聖書は、幸福な結婚の三段階を述べています。第一に父母を離れる、第二に妻と結び合う、第三に二人は一体となるということです。今回は、第一の「父母を離れる」つまり親離れということについて。

「やあ、また家内に泣かれてしまいました。」とMさんは語り始めました。「実は、味噌汁の味がおふくろとちがうなあといもらしてしまっただけですよ。これで、四回目。」Mさんはおふくろの味が忘れられなかったわけです。

結婚したら料理を食べるたびに、「おふくろはこんな味じゃなかった。」というな

らば、奥さんはそのプレッシャーでまいってしまってください。おふくろの味はおふくろの味、奥さんの味は奥さんの味です。結婚したら、おふくろの味は忘れて奥さんの味を楽しめるようになりたいものです。まあ奥さんとしては、「じゃあお母さんに今度教わっておくわ。」と言える心の余裕もあるのが理想ではあります。とにかく基本的には結婚したら「父母を離れ」です。

結婚式の時、ある先生がご自分の失敗談をお話くださいました。「結婚した翌日の朝、私はたいへんいやな思いをしました。その翌朝も、さらにその翌朝も……。そしてついに私は爆発してしまいました。」一体何があったのでしょうか。歯ミガキのチューブでした。先生は幼いときから「歯ミガキは端っこからしぼるんだ。」ときつくしつけられて来たのですが、奥さんが育った家庭で「歯ミガキなど、どこから絞っても同じ」という方針でした。

ある人は玄関の靴を並べよとしつけられてきましたが、結婚してみると夫が自分かぬいだ靴を並べなそうとしません。それが気になって気になってしかたがないといいま

す。ある奥さんは、ずっと取りばしを使う家庭で育ったのに、お嫁に来たらじかばしなのでいやだと言いますし、夫は取りばしなど他人行儀でいやだと言います。

八ミガキをはしからしぼるか、それとも真中でいいのか。くつをそろえるかどうか。取りばしをつけるか、じかばしか。どちらでも良いことです。習慣にこれは絶対ということはありません。聖書にじかばしにせよとも、取りばしをつけよとも、はみがきのチューブは端からしぼれとも真中でよいともありません。「それゆえ、父母を離れ」です。自分の育った家の習慣を絶対としないで、夫婦で新しい家風を作っていけばよいのです。「それゆえ、男は父母を離れ……」です。それが妻と結び合い、夫と結び合うために必要な覚悟というものです。